

コロナ禍の今だからこそ、つながりを大切に とちぎコープの組合員活動

大切にしてきた 『おしゃべりの場』 コロナ禍で次々休止に

とちぎコープは組合員同士や地域の方が参加する『おしゃべりの場』を大切にしてきました。毎年春に県内各地で開催してきた『おしゃべり交流会』、子育て中のお母さんを対象とした『ママカフェ』。「おいしかった」「使ってよかった」「こんな商品あったらいいな」など様々な話題があり、くらしの知恵や工夫があふれていました。

企画や運営を担ってきたのは、県内7つのエリア（ブロック）で活躍する組合員理事とエリア委員の皆さん。交流の中から見えてきたことを事業や活動に反映し、組合員のくらしに役立つ生協を目指してきました。

しかし2020年春より、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、こうした活動は次々と休止を余儀なくされました。



新たな取り組み オンラインで交流

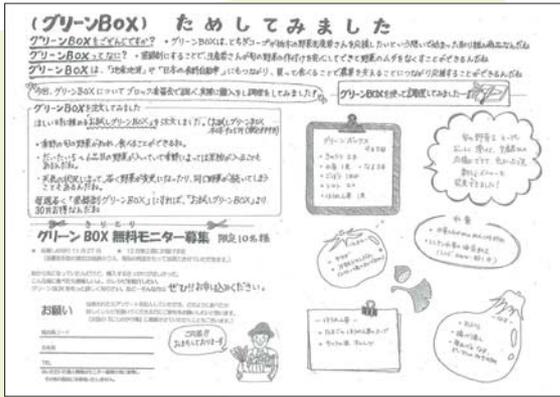
状況が変化する中でもできることを模索し、新たな取り組みが始まりました。オンラインツールを活用し、昨年から始まった、小山ブロックの『おしゃべりモ』、宇都宮ブロックの『オンラインママカフェ』が好評です。「友達とランチなどにも行けないので、おしゃべりが楽しかった」「参加直前まで家事ができ、いつもよりゆとり参加できたように感じます」などの声が寄せられました。初めての方でもスムーズに参加できるよう案内を工夫しながら定期的な開催を続けています。

3月には2020年度の総代を対象にZoomを利用したオンラインの商品学習会を全エリアで開催しました。「co・o・p・mーニングクロワッサン」でおなじみの（株）コモさんに講師として参加いただき、事前にお届けした試食のパンを食べながら楽しく学習・交流しました。総代同士やブロックメンバーとの新たなつながりの場となりました。



手作りの ブロックニュース

西那須野・日光・足利ブロックは、手作りのニュースを発行しました。日光ブロック『にじのかけ橋』では、グリーンBOXを調理して感想を伝えたり、モニターを募集し、寄せられたレシピを紹介するなど、組合員と交流しながら紙面を作っています。モニターの中にはグリーンBOXを初めて利用された方も多く「購入してみたい」の声も多数寄せられました。組合員と商品との新たな出会いのかけ橋ができました。



シトラスリボン プロジェクト



コロナ禍で生まれた差別や偏見をなくして「ただいま」「おかえり」と言い合える、おもいやりの輪を広げる運動です。各ブロックでリボンを作成し、宅配のトラックの扉に貼ってアピールしました。また、店舗や移動店舗でリボンを配布しました。宇都宮ブロックは、11月の越戸店頭で開催したフードドライブで、来場者に作り方とリボンをお渡ししました。

組合員みんなで 取り組んだ

「新型コロナウイルス 感染症に負けない！」 緊急応援募金」

2020年6月8日〜7月10日の間緊急募金に取り組みました。360万2,915円が寄せられ、栃木県「新型コロナウイルス感染症対策医療従事者応援寄附金」、栃木県共同募金会「赤い羽根 子どもと家族の緊急支援募金」、日本ユニセフ協会「新型コロナウイルス緊急募金」に寄付しました。ご協力ありがとうございました。



栃木県共同募金会 中川常務理事 (右) ・
とちぎコープ 大島総合企画室室長 (左)

募金活動以外にも、 とちぎコープとして 寄付をしました



子ども食堂サポートセンターとちぎ 荻野代表 (左) ・
とちぎコープ中田理事長 (右)

「子ども食堂サポートセンターとちぎ」に100万円を寄付しました。栃木県内の子ども食堂は46カ所ありますが、緊急事態宣言による活動縮小や運営費用確保が困難なことにより活動を中止している団体もあります。寄付金は栃木県内の子ども食堂の運営に活用されました。その他にもフードバンクへの食糧寄贈、栃木県の「新型コロナウイルス感染症対策医療従事者応援募金」、とちぎコミュニティの合同寄付キャンペーン「がんばろう栃木！ 支えあい基金」も含め、総額260万円相当を寄付しました。また、医療生協・ふれあいコープ・労働福祉事業団へ感染防護用品を提供しました。